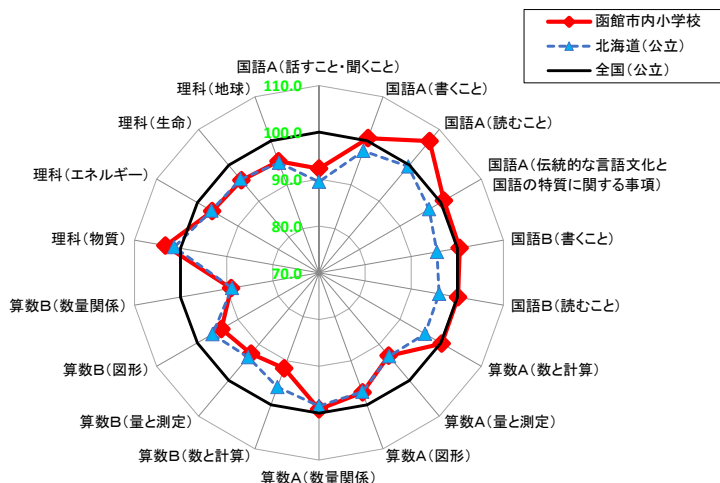


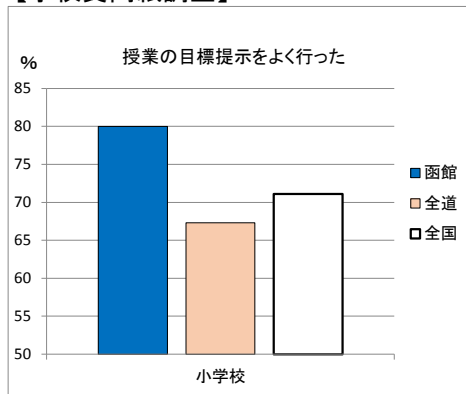
■ 函館市内小学校の状況及び学力向上策 (学校数: 45、児童数: 1847名)

【教科全体の状況】

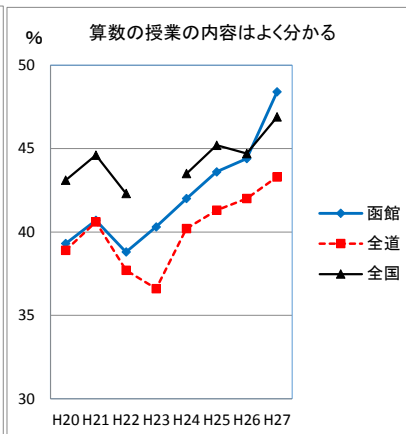
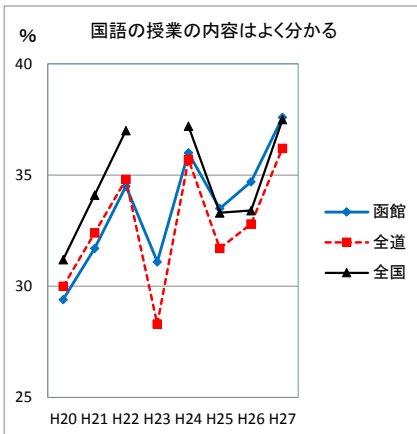
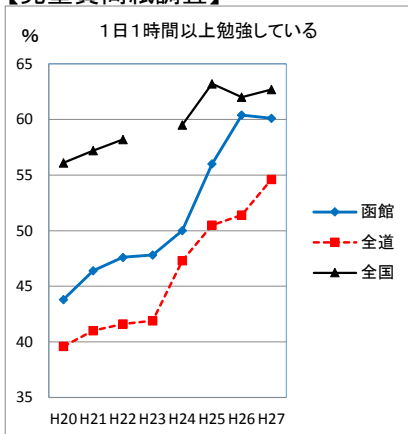
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものの(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【学校質問紙調査】



【児童質問紙調査】



【分析】

教科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語Aでは「書くこと」、「読むこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で全国及び全道を上回っており、「話すこと・聞くこと」で全道を上回っている。国語Bでは、全ての領域で全国及び全道を上回っている。 ○ 算数Aでは「数と計算」が全国及び全道を上回っており、「図形」、「数量関係」で全道を上回っている。算数Bでは、「数量関係」で全道を上回っている。 ○ 理科では「物質」で全国及び全道を上回っており、「地球」で全道を上回っている。 	○ 各学校において、教員が授業の冒頭で目標を提示するなど、分かりやすい授業の実施に努めるとともに、児童の家庭学習習慣の定着に向けた取組を推進したことにより、国語や算数Aにおいて成果が上がったと考えられる。
児童質問紙	○ 「1日当たり1時間以上勉強する」と回答した児童の割合が、全道を上回っている。	
学校質問紙	○ 「授業の冒頭で目標を児童に示す活動を計画的に行っている」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。	

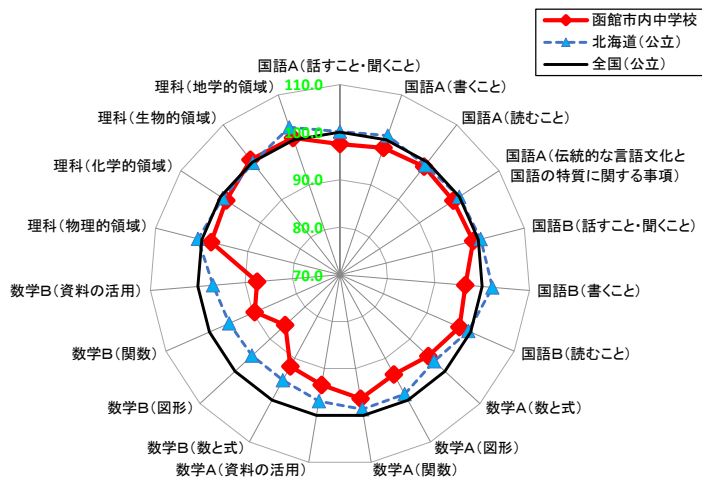
【函館市の学力向上策】

- ◎ 学校教育推進の指針「アプローチ」に基づく、各学校の組織的な教育活動の推進
- ◎ 学力向上プロジェクト推進委員会による、本市独自の調査(CRT)や全国学力・学習状況調査の分析及び、学力向上に向けた効果的な指導方法等についての研究の推進
- ◎ 学生ボランティアや地域住民による放課後や長期休業中の学習支援(函館市学力向上支援事業「アフタースクール」)の推進

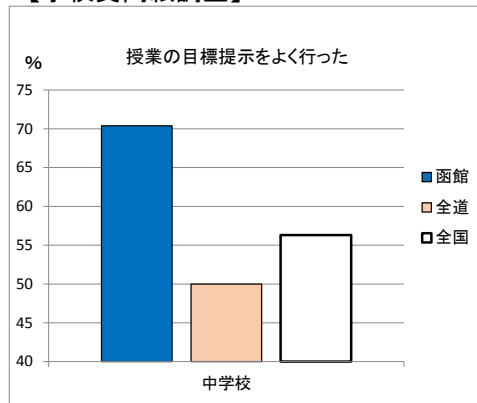
■ 函館市内中学校の状況及び学力向上策 (学校数: 27、生徒数: 1799名)

【教科全体の状況】

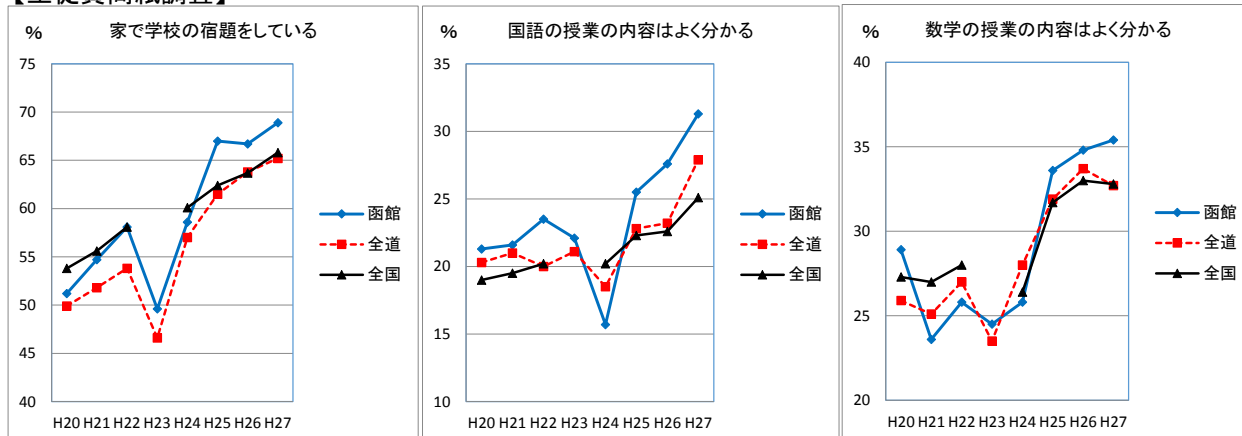
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【学校質問紙調査】



【生徒質問紙調査】



【分析】

教科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語Aでは「読むこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」、国語Bでは、「話すこと・聞くこと」で全道とほぼ同様になっている。 ○ 数学A・Bともに、全ての領域で全道を下回っている。 ○ 理科では「生物的領域」で全国及び全道を上回り、「地学的領域」で全国を上回り、「化学的領域」で全道とほぼ同様になっている。 	○ 各学校で、教員が授業の冒頭で目標を提示するなど、分かりやすい授業の実施に努めるとともに、生徒の家庭学習習慣の定着に向けた取組を推進したことにより、各教科において成果が上がりつつある。
生徒質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「家で学校の宿題をしている」と回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回っている。 ○ 「国語の授業の内容がよく分かる」、「数学の授業の内容がよく分かる」と回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回っている。 	
学校質問紙	○ 「授業の冒頭で目標を生徒に示す活動を計画的に行った」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。	

【函館市の学力向上策】

- ◎ 学校教育推進の指針「アプローチ」に基づく、各学校の組織的な教育活動の推進
- ◎ 学力向上プロジェクト推進委員会による、本市独自の調査(CRT)や全国学力・学習状況調査の分析及び、学力向上に向けた効果的な指導方法等についての研究の推進
- ◎ 学生ボランティアや地域住民による放課後や長期休業中の学習支援(函館市学力向上支援事業「アフタースクール」)の推進